

# 電力系統への電源接続拡大に向けた取り組みについて（参考）

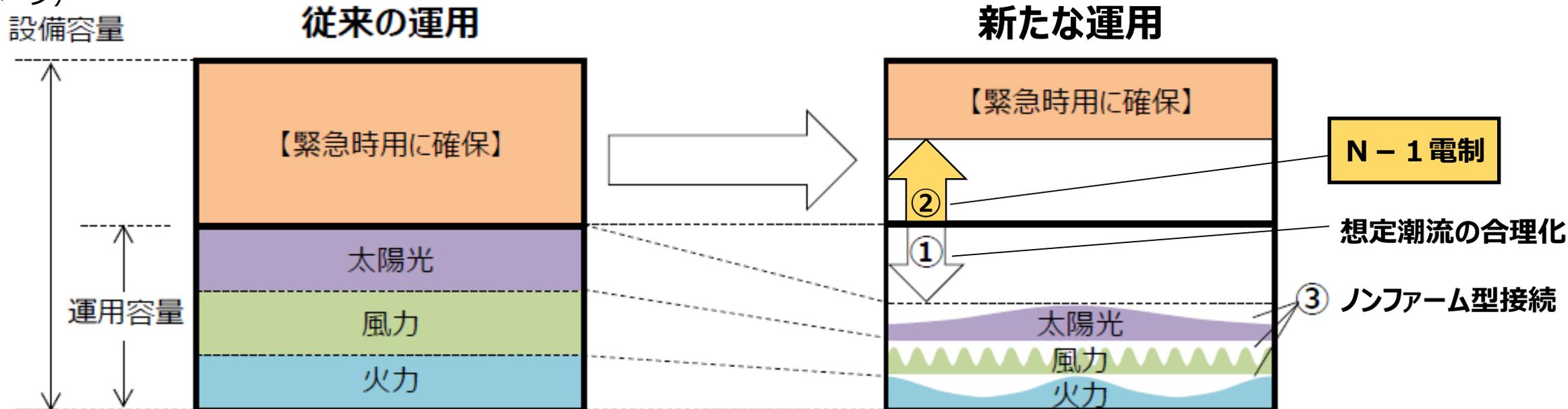
## 【従来の運用】

太陽光や風力、火力等の接続電源が最大出力となった場合でも送電できる容量を確保するとともに、送電線 1 回線事故時でも送電できる容量を緊急時用として確保

## 【新たな運用】（一部継続検討中）

- ① 「想定潮流の合理化」：接続電源の送電に必要な容量を実際の運用出力により評価することで、接続可能量を拡大
- ② 「N-1電制」：緊急時用に確保していた容量を活用することで、接続可能量を拡大。送電線 1 回線事故時には電源の出力を抑制
- ③ 「ノンファーム型接続」：接続電源について、時間帯によって利用されていない分の容量を活用することで、接続可能量を拡大。送電線の運用容量を超える場合には電源の出力を抑制

(イメージ)



(出典) 総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会／電力・ガス事業分科会  
再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会（第2回） 資料2より当社作成